新しい分別からの ごみの資源化、そして減量化へ…

皆さんのご家庭から出る「ごみ」。一言で「ごみ」とは言うものの、資源として再生利用できるものが多くあります。

資源となるものは資源ごみに

容器包装プラスチック、古紙・古布類、剪定枝、ペットボトル、ビン、廃食用油、空き缶類、金属類は、資源として収集しています。分別区分に応じて正しい分別をお願いします。

まだできる!!資源化!?

皆さんの協力により、まだまだ資源化を進めることができるものは、「容器包装プラスチック」と「古紙」です。

☆容器包装プラスチック

「プラマーク」の付いているプラやビニールは、すべて容器包装プラスチックです。

▲プラマーク

「中身を使い切って、汚れを落として」出すことが基本です。汚れていると、他のきれいなものにまで汚れが移ってしまい、資源化できなくなってしまいます。

ひとりの「まあ、いいや」という気持ちが、皆さんの分別を台無しにしてしまいます。

☆古紙

新聞、雑誌、ダンボール、牛乳パックは、すでに資源化に協力いただいていると思いますが、**『雑紙』と呼ばれる「名刺サイズよりも大きい紙類」も資源化することができます。**

雑紙は、紙袋にまとめて入れて出すか、雑誌の間に挟んで出してください。

雑紙は、紙袋にまとめるか、雑誌の間に挟んで、「古紙の日」に出してね!

資源にならないごみは「減量化」

資源にならないごみは、「可燃ごみ」と「不燃ごみ」に出すことになります。その中でも、町のごみの大半を占める可燃ごみは、後は燃やされるだけ。それなら、少しでも量を減らして、燃やすときに出る二酸化炭素を減らしたり、焼却する費用を削減することを考えてみませんか?

生ごみは減量できる!?

可燃ごみの約半分の量を占める「生ごみ」。生ごみの約半分は「水分」です。この水分を減らすことが、減量化への第一歩であり、いちばんの近道です。

では、どうしたらいいの?

☆「ギューっと」ひと絞り

お茶殻やコーヒー殻などの水分を多く含んだものは、捨てる前に「ギューっと」ひと絞りしましょう。調理した後の野菜くずなどは台所の三角コーナーでよく水を切って、「ギューっと」ひと絞りしてから捨てましょう。

ギューッとひと絞り!!

☆さらにひと手間「乾かす!」

ひと絞りした野菜くずは新聞紙を広げて2~3日置いておくと、さらに約3分の1にまで減量できます。

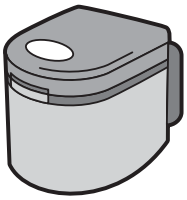
☆生ごみ処理機も有効!

手間を掛けることが苦手な方、時間のない方には、「電動生ごみ処理機」をお勧めします。

軽く水を切って、生ごみを入れてスイッチを入れるだけ…。2~3時間もすれば約4分の1の量に減量できます。

家庭菜園などをお持ちの方は、乾燥したものを肥料として利用することも可能です。

町には、「電動生ごみ処理機購入費補助制度」があります。購入費用の2分の1の金額を、4万円を限度に補助しています。


スイッチひとつで、減量化!

また、畑をお持ちの方や、広いお庭をお持ちの方には、「生ごみ処理容器(コンポスター)」がお勧めです。電動ではなく、畑やお庭に置いて、生ごみと土を混ぜ合わせることで、肥料をつくることができます。

町では安価でのあっ旋販売を行っています。

「電動生ごみ処理機」と「生ごみ処理容器(コンポスター)」については、お問い合わせください。

肥料もできるよ!

皆さんのご家庭から出るごみを、「資源化」、「減量化」していくことは、これからの町のごみ行政にとって重要なことです。「資源化」を進めることで、地球上の限りある資源を有効に使うことができます。

また、大磯町のごみのほとんどは、平塚市で処理されています。ごみを「減量化」すれば、ごみを運ぶ車両の台数も減り、処理するごみの量も減ります。平塚市のごみ処理施設周辺の環境負荷も減り、ごみ処理経費の削減にもつながります。

まずは「できることから、コツコツ」と。

ご協力をお願いします!!

問 環境美化センター
☎(72)4438